

令和5年度 第1回 高知県公共事業再評価委員会
議 事 要 旨

令和5年10月24日(火) 9:00~10:10
高知共済会館 3階「藤」

地域高規格道路 一般国道493号 北川道路2-2工区 道路改築事業

◆主な意見等

委 員 : 無電柱化の取り組みは、これからの道路整備では必要。特に山間部では、倒木による影響が少なくなるので、ぜひ進めてほしい。

道路課 : 承知した。

委 員 : 現道部は、落石・崩落が多いことから、今回の道路が完成することは、地域住民の安心につながる。工事の際は、安全性に十分注意し、1日も早い完成をお願いしたい。

道路課 : 承知した。

委 員 : (P.27) 交通量の変化について、2100台/日から3700台/日に増えた理由は何か。

道路課 : 2つの工区(北川道路1工区・奈半利安芸道路)が新規事業化されたことにより、現道を走行していた車が当該工区に流れてくるため。

委 員 : (P.25) 費用便益分析における走行時間短縮便益の「物流コストの低減」について、「物」とは具体的に何を示すのか。

道路課 : 特定の品目など具体的に示すものはない。物流コストの便益については、マニュアルの計算式に基づき、算定している。

委 員 : 今回の事業費増については、当初から想定できないのか。

道路課 : 当初は、事業費が過大にならないよう、必要最低限の設計で工事に着手する。その後、地質などの状況をみながら、必要に応じて、最適かつコストを最小限に抑えた対策を追加し、工事を進めている。地質調査についても限界があり、当初の段階からすべての状況を把握することができないため、その都度、事業費増とする設計変更が必要となる。

委 員 : (P.17) 価格高騰について、全国的に大変厳しい状況が続いているが、地方ではもっと厳しいと思われる。高知県での価格はどのような状況か。

道路課 : 鋼材は1.6倍、生コンクリートは1.2倍、人件費は1.1倍に高騰している状況(P.17の右ページ参照)

委員 : 暫定供用の追加は、やむを得ないと思うが、工期が遅れた理由については丁寧な説明が必要。土地収用手続きや地籍調査の進捗について、今後の見込みはどうか。

道路課 : 地籍調査自体は問題なく進んでいる。しかし、地籍調査完了後に持ち主が亡くなり、追加の作業が発生してしまうケースがある。このような事象が発生しないよう、関係地元市町村とも連携し、地籍調査完了後に早期に用地買収できるように取り組んでいく。

委員 : 残土の収支はどのような状況か。

道路課 : トンネルの掘削土は、仮設ヤードや道路盛土などに流用しながら、工事内での有効活用を行っている。

委員 : (P. 25) 費用便益分析では、現道防災対策費が不要になるとして、控除している。しかし、旧道を利用する人は少なからずいるはずで、いくらか対策は必要と考えるが、その点はどのように計算しているのか。

道路課 : 沿線に人家がない部分には対策無し。人家がある部分については、最低限の対策を実施するが、ネットを張るなど、現在と同じレベルの対策まではしないこととしている。

委員 : (P. 15) 出水状況を確認すると、放流量・放流回数ともに令和2年度が最大となっている。前回の再評価は、令和2年度であったが、そのときに計上していなかった理由は何か。

道路課 : 前回の再評価時には、橋梁工事には着手していなかったため、今回のリスクを想定できていなかった。

委員 : 北川道路 2-2 工区は、同じ工区で事業費増を2回もしている。今回は、資材の高騰があったため、やむを得ないとは思いますが、同じ工区で何度も事業費増をするのは、県民の負担も増えることから、今後はできるだけ事業費が増えないように配慮してほしい。

道路課 : 承知した。